

老朽化したLL教室に代わって、新しいICT授業支援ツールを導入。



ICTの導入に積極的に取り組む熊谷先生

「LL教室は、手本となる音声を生徒がヒアリングしながら発声練習し、さらに手本を重ねて自分の発声を録音す

「老朽化したLL教室の改装を検討していたときに、そもそもLL教室である必要性に疑問を感じました」と話すのは、同校英語科の教員であり、日本国際バカロレア教育学会の役員も務める熊谷優一先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「LL教室は、手本となる音声を生徒がヒアリングしながら発声練習し、さらに手本を重ねて自分の発声を録音す

「老朽化したLL教室の改装を検討していたときに、そもそもLL教室である必要性に疑問を感じました」と話すのは、同校英語科の教員であり、日本国際バカロレア教育学会の役員も務める熊谷優一先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

「生徒へ課題を二斉配信する」とは、生徒は画面の課題に自分の意見を書き込み、それをみんなで見ることが可能。いわばタブレットの画面を介したディスカッションですね。最大40人といっても、1対40の一斉授業ではなく、1対1のつながりが40人分あって、しかもそれがリアルタイムで30にも展開されるイメージです」と熊谷先生

1対40の一斉授業ではなく、「1対1」×40人分がつながる授業。



教員側の設問と生徒の回答の例。生徒の回答は並べて表示し、比較することも可能。

の先生でも簡単に使いこなせると思います。いま、他教科、と言ったことにも理由があった。実はこのシステムは無線LANの環境があれば、サーバーやインターネットへの接続がなくても使えます。つまり一般教室でも気軽に利用できるのです」

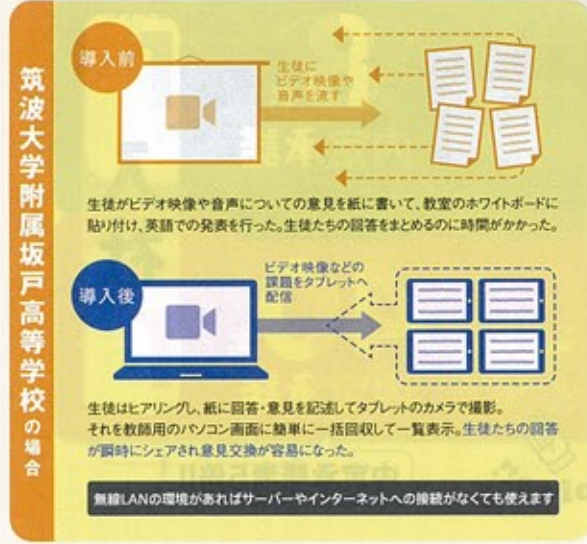
筑波大学附属 坂戸高等学校

「1対1」×40人分

がつながるまったく新たな授業形態を実現できました!

「筑附」「筑駒」とともに筑波大学の附属校として知られる「筑坂」として筑波大学附属坂戸高等学校。全国初の総合学科を開設したという横顔を持ち、SGH指定校に裏付けされた先進的な教育活動にも定評がある同校に、今回タブレットによる最新のICTシステムが導入され、主に英語の授業で有効活用されているとのことで取材に伺った。

生徒たちのスマホで課題をオンラインで取り組ませたりなど、ICTを授業に取り入れることに積極的だ。そんな熊谷先生の授業はもともとアクティブラーニングの要素が強く、例えば先生が課題としてビデオ映像や英語の音声を示すと、生徒は課題に対する意見や問題点を紙に英語で書いて、教室に設置されたホワイトボードに貼付。そのうえでみんなの前で英語での発表を行っていた。こうした流れがタブレットによって効率化される。つまり、タブレットに配信された課題を確認した生徒は、従来どおり紙に英語で記述した回答をタブレットのカメラで撮影して先生



アクティブラーニングの理想は、「シーク」→「ペア」→「シェア」。

アクティブラーニングと言え、生徒同士で語り合うために教室の机を移動させたり、教室内を自由に動き回って意見交換したりなど、学校ごとにその、カタチも工夫されている。しかし、「サイバー先生」を使えば、各自が自分の席に座っているながら、タブレットを通じて全員でのディスカッションが可能。いつでも簡単にアクティブラーニングを展開できる。

「普段は人前で意見を言うのが苦手な生徒でもタブレットなら活発な意見を発信できます。積極的に意見を発信し続けるうちに、実際に人前で発言することへの抵抗がなくなる効果にも期待しています」と熊谷先生は、ICT教育がもたらす、付加価値、へも期待を寄せる。

また先生は、アクティブラーニングの理想的な流れとして、「シーク」→「ペア」→「シェア」の3ステップを挙げて、その意義を説明する。「シーク」は、一人ひとりの意見を聞き、共有する。それを踏まえて批判的思考力の育成に努めているが、「ここにもICTの関わりは必要不可欠だ」と語る。

「特にシェアを簡単に行えることがタブレットの大きなメリットです。クラスで一人ずつ前に出て発表する形では時間がかかり、全員の意見を理解することも難しくなる。タブレットに意見が集約されて見比べられるなら、興味を持った意見だけを選んで質問することもでき、授業が効率化されるだけでなく、相互学習が可能になります」

同校ではSGHに指定された効果か、その翌年には英検2級を取得した生徒数が約4.3倍に増え、そしてその翌年にはそこからさらに1.5倍に増えたという。

「何かきっかけがあれば生徒たちの能力は大きく伸びます。それがそれが高校生の特長。我々教師の役割は、そのためのきっかけをいかに用意できるかどうかです。「サイバー先生」によるICTシステムを用いた授業が、生徒たちが能動的に何かを学ぶきっかけになればうれしいですね」

習がメインだったが、タブレットを活用する「サイバー先生」のシステムなら、英語で考え、英語で発表するといった実践的な授業にまで対応。さらにLL教室でしか受けられなかった授業が、WiFiさえあればどこでも実施でき、導入に必要なコストやランニングコストもLL教室のリニューアルと比較するまでもなく安価で済むのだ。

NTTIT

サイバー先生®なら 双方向のアクティブラーニング環境を簡易に構築可能!!

筑波大学附属坂戸高等学校でも 絶賛導入中!!

先生・子どもたちを支える 3つの柱

- 柔軟な仕様
 - ニーズに合ったソフトウェアをご提供
- 授業ICT化支援業務
 - 導入後のサポート対応
- 授業ICT化のご相談
 - 成功例、失敗例を交えたご相談対応

今だけ モニター募集!サイバー先生を無償でお貸出し! ICTを使ったアクティブラーニングに関するアイデアをご提示下さい。詳しくは下記へお問合せ下さい。

お申し込み お問い合わせ <http://www.cybersensei.net/> cybersensei@ntt-it.co.jp 045-651-7538

販売代理店

Canon, PRIMA, PADIN HOUSE, 山口製電機株式会社, Datas Network & AVC, 教育産業株式会社